



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-37

(2025. 7. 9)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 森川 友理

03-5202-7671

s1000790@facetoface.ne.jp

諏訪信用金庫による「おてつたび」を活用した
取引先の人手不足対応への貢献

ポイント

- 少子高齢化による労働力人口の減少や働き方改革による時間外労働の上限規制などを背景に、中小企業の人手不足が深刻な問題となっている。
- 2024年5月、諏訪信用金庫は人手不足に悩む取引先を支援することを目的に、働きながら旅を楽しみたい旅行者と地域事業者をマッチングする人材マッチングサービス「おてつたび」の取扱いを開始した。
- ホテル、旅館、観光施設などの宿泊設備を保有する事業者を中心に実績を積み上げており、活用した取引先から好評を得ている。
- 取引先の認知度向上や人手不足対応といった課題解決に貢献しており、金庫側の事務負担も少ないことから、効率的な課題解決支援策として今後も取扱いを継続していく。

1. 深刻化する中小企業の人手不足

わが国では、少子高齢化による労働力人口の減少や働き方改革による時間外労働の上限規制などを背景に、中小企業の人手不足が深刻な問題となっている。特に地方部では、大都市への人口流出により、相対的に強い人手不足感を抱えている。

本稿では、取引先の人材確保を支援する事例の一つとして、長野県岡谷市に本店を置く諏訪信用金庫（図表1）の取組みを紹介する。

同金庫の営業エリアである長野県諏訪地方では、特に旅館やホテルなどの宿泊業を営む事業者において深刻な人手不足が問題となっているが、全国的にも宿泊業における人手不足は大きな課題となっており、諏訪地方と同じ課題を抱える地域は多いと考えられる。全国中小企業景気動向調査¹（2025年6月時点）をみると、人手過不足判断D.I.²は全業種で△25.1であったのに対し、宿泊業（旅館・ホテル）は△35.9と10ポイント以上低い数値となった（図表2）。また、同調査にて、2024年3月に実施した中小企業における人材戦略にかかる特別調査では、宿泊業を営む事業者の半数前後が「若手が不足している」「高齢化が進んでいる」と回答している（図表3）。

（図表1）諏訪信用金庫の概要（24年度末）

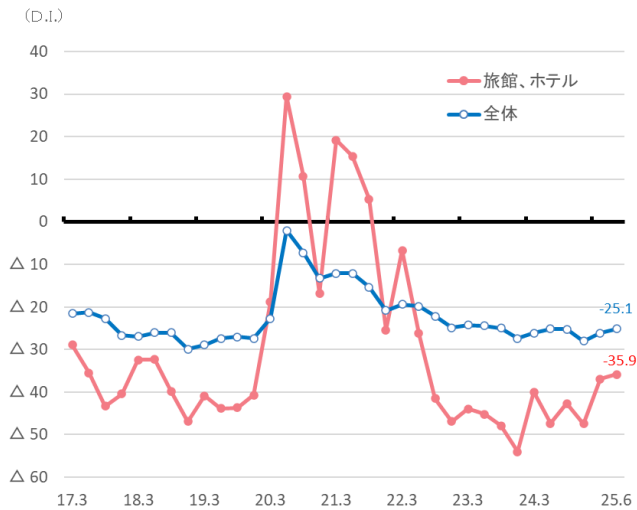
本店所在地	長野県岡谷市
創立	1937年3月6日
預金残高	4,212億円
貸出金残高	1,934億円
店舗数	21店舗
常勤役職員数	265人

（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

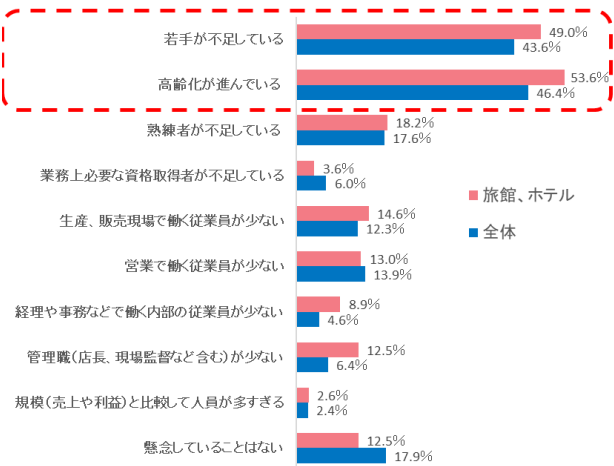
¹ 信金中央金庫 地域・中小企業研究所が四半期ごとに実施。全国約16,000の中小企業を調査対象として、景気の現状と今後の見通しを全国の信用金庫営業店の調査員が面接聴取りしている。

² 「過剰」と回答した割合（%）から「不足」と回答した割合を引いた値であり、プラス値が大きいほど、人手の充足感が強まっていることを示し、マイナス値が大きいほど人手不足感が強いことを示す。

(図表 2) 人手過不足判断 D. I. の推移



(図表 3) 現在の人材の状況についての懸念事項



(備考) 1. 図表 2・3 ともに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成
2. 図表 3 の調査時点は 2024 年 3 月

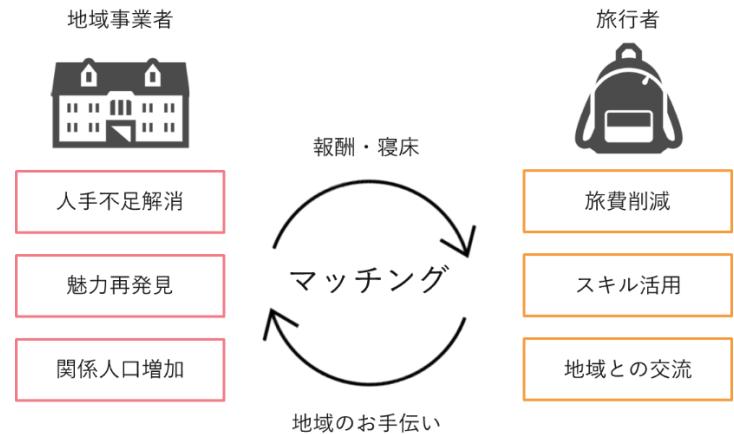
2. 取組内容

(1) 概要

同金庫は 2024 年 5 月 1 日、株式会社おてつたび（本社：東京都渋谷区、代表取締役：永岡里菜）と顧客紹介業務に関する提携契約を締結し、人材マッチングサービス「おてつたび」の取扱いを開始した。人手不足に悩む取引先の課題解決を目的としており、金融機関として初の事例である。

「おてつたび」は、「お手伝い」と「旅」を組み合わせた造語で、人手不足に悩む地域事業者と、働きながら旅を楽しみたい旅行者をマッチングするサービスである（図表 4）。この仕組みは、旅行者が自己負担で現地まで移動し、旅先で働くことでアルバイト代を得るとともに、無料で宿泊場所を提供されるというものだ。一方、地域事業者にとっては、繁忙期に全国から人手を確保できるだけでなく、旅行者が地域のファンや顧客となる可能性があるため広告効果も期待できるというメリットがあり、双方にとって利点のある仕組みとなっている。

(図表 4) サービス概要



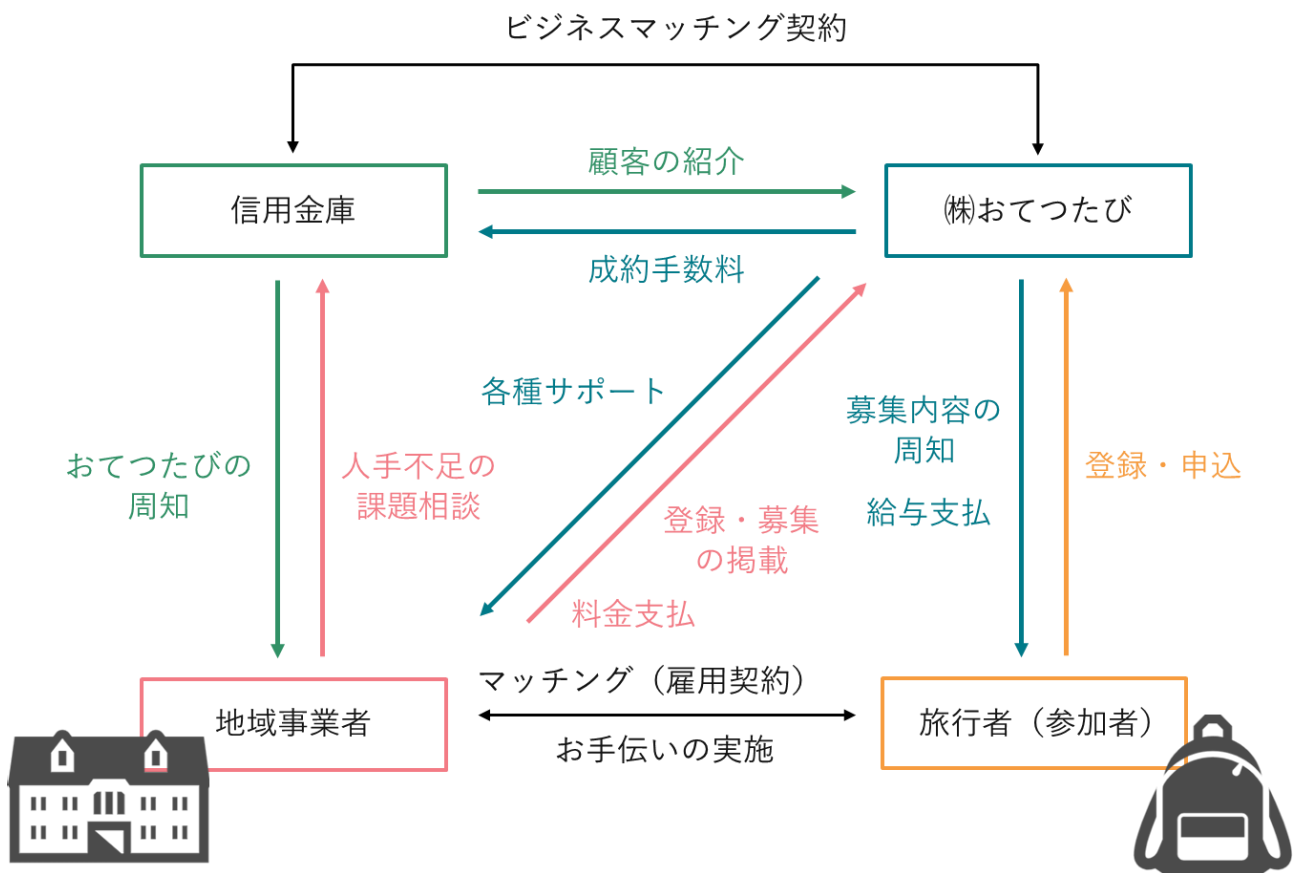
(備考) おてつたび HP をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

（２）業務フロー

同金庫は、取引先である地域事業者から人手不足に関する相談を受けた際に、「おてつたび」を紹介する（図表５）。具体的には、チラシを用いてサービス内容を説明し、チラシに記載された二次元コードから申し込んだ地域事業者が受入事業者登録を行うことで、サービス利用が開始される仕組みである。旅行者からの応募を受け、「おてつたび」のマッチング（雇用契約）が成立した場合に、同金庫はマッチング手数料を獲得する。

主管部門はビジネスサポート部で、取引先への案内も同部が行っている。特に需要の見込まれる宿泊業を営む事業者については、旅館組合に依頼して各旅館にダイレクトメールを送付する形で案内している。

（図表５）スキーム図



（備考）同金庫への取材をもとに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

（３）利用状況

取扱開始から１年が経過し、ホテル、旅館、観光施設などの事業者を中心に、実績を積み上げている。取引先の利用方法としては、継続的に求人募集を掲載している取引先もあるが、繁忙期などに必要に応じて利用している取引先が多い。取引先からは、「掲載即募集定員に達した」「求人のリピート率が高い」「参加者から良いレビューを書いてもらえた」など、非常に好評を得ている。

3. 取組時のポイント

(1) 他社人材マッチングサービスとの使い分け

紹介する人材マッチングサービスは、雇用形態や期間など事業者のニーズによって使い分けるのも一案である。

ちなみに、「おてつたび」は1週間から数か月程度の中長期のアルバイトを主に募集する仕組みであり、リゾートバイトのイメージに近い。同金庫では、特に農業や宿泊業など、繁忙期に集中的に人手が必要となる事業者に対し、同サービスを案内している。同サービスは、参加者の大多数が他都道府県からの参加であるという特色もあり、関係人口（諏訪地域のファン）の増加という効果も期待できる。

(2) 受入環境の確認

旅行者がおてつたび先を選定する際に重視するポイントは、「宿泊設備」と「Wi-Fi 環境の有無」だと言われている。よって、取引先へ「おてつたび」を紹介する際は、これらの条件が整っているかどうかを確認することが重要である。農家など宿泊設備を有しない事業者については、自治体によって宿泊施設の利用にかかる補助金制度がある場合もあるため、補助金の活用を提案することも一案である。

4. 評価・今後の計画

本取組みは、取引先の認知度向上や人手不足対応といった課題解決に貢献しており、金庫側の事務負担も少ないことから、効率的な課題解決支援策といえる。

同金庫としては、今後も「おてつたび」の取扱いを継続していく方針であり、他の様々な支援メニューと組み合わせつつ、取引先の課題解決および地域経済の活性化に向けた支援を強化していく考えである。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

関連レポートのご案内

このほかにも、
信用金庫経営に関する様々な情報を発信していますので、
当金庫 HP からご覧ください！

当研究所 HP トップ : <https://www.scbri.jp/>

関連レポートは
こちら



No.	発行日	タイトル
2024-92	2024/11/6	飯田信用金庫の伴走型事業承継支援についてー「事業承継・引継ぎ補助金 経営革新型」採択実績トップ信用金庫の取組みー
2024-148	2025/2/21	しずおか焼津信用金庫の「DX トライアル制度」について
2024-168	2025/3/11	甲府信用金庫の「キッズフリマ」を通じた金融教育の実施
2024-180	2025/3/25	島田掛川信用金庫の高校生参加型アントレプレナーシップ研修
2025-22	2025/5/7	たちばな信用金庫のコラボン連携による取引先支援
2025-23	2025/5/7	たちばな信用金庫の諫早商業高等学校との連携策
2025-28	2025/6/6	しずおか焼津信用金庫の未来へつなぐ地場産業活性化策